

8月27日(金曜日)

ドル/円

米GDPとバーナンキFRB議長に注目

26日(木)の主な推移

チャート: 30分足 26日(木)朝6時 ~ 27日(金)朝6時

NYダウ平均

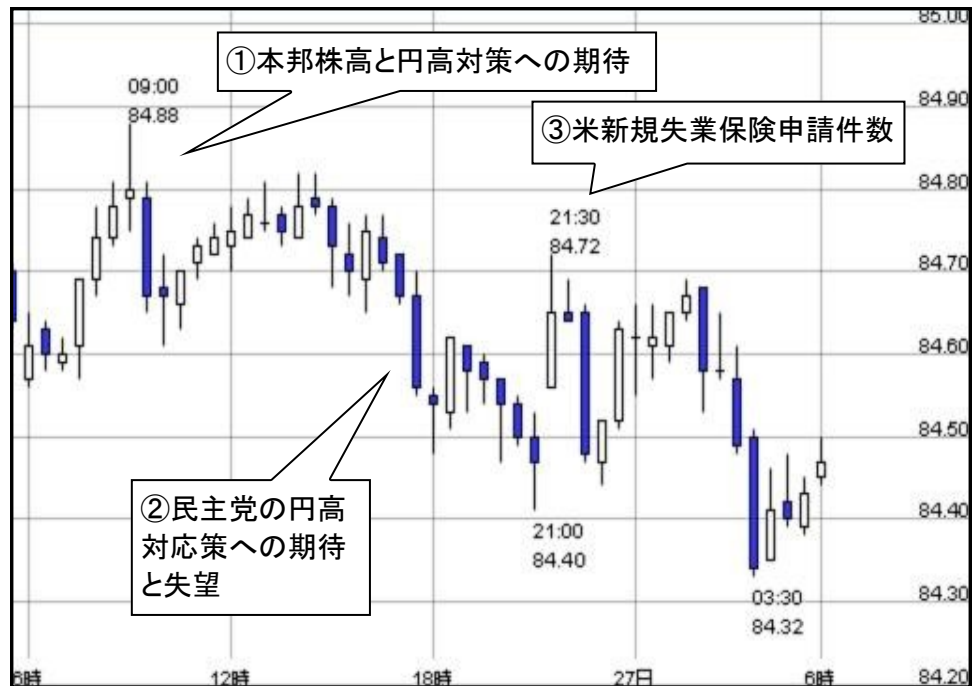
9985.81ドル
(-74.25ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.4844%
(-0.0567%)

NY原油先物

73.36ドル
(+0.84ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

前日のNYダウ平均が引けにかけて持ち直したことにより、本邦での株高が期待された。また菅首相が検討している追加経済対策の政府原案の概要として、「日銀に対して追加金融緩和策を促す」などと伝わり、円高対策への期待感が広まったことが合わさり、ドル/円は9時過ぎに84.88円まで上昇した。

②

昼過ぎに玄葉民主党政調会長から「午後4時半に経済関係閣僚会議で民主党の方針を示す」と伝えられた。その後の会見にて「日銀には、迅速かつ一歩踏み込んだ対応を要請したい」など、財務省と日銀の連携強化による適切な対応を求めた。しかし具体的な円高対策が出なかったことが嫌気され、ドル/円は欧州時間ではじり安の展開が続き、21時過ぎには84.40円まで下落した。

③

21時30分に発表された米新規失業保険申請件数は47.2万件と市場予想(49.0万件)より下回ったことにより、ドル/円は84.72円まで上昇した。だがその後米国景気の先行きに対する懸念は根強く、NYダウ平均が反落し、再び1万ドルの大台を割り込むとドル売りが優勢となり、ドル/円は84.32円まで下落した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 83.30- 85.20円

本日、米第2四半期国内総生産(GDP)・改定値の発表が予定されている。事前予想では速報値より大幅な下落が見込まれており、仮に予想に近い数字かそれを下回る結果となった場合、市場では改めて米景気の減速懸念が強まり、ドル/円の下落要因となる可能性があるので注意したい。

そのほか、バーナンキ連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演が23時から予定されている。市場では米国経済の減速懸念が高まっている時だけに、仮に先行きについて悲観的な見通しが述べられた場合、市場はドル売りで反応することが予想される。一方で楽観的な見通しを示した場合でも、米国の雇用や住宅市場が軟調に推移していることを考慮すると、大きくドルが買われる展開は想像しづらい。(川畑)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/27(金)	21:30	◎	(米) 第2四半期GDP・改定値 [前期比年率]	+2.4%	+1.4%
	21:30	○	(米) 第2四半期個人消費・改定値 [前期比]	+1.6%	+1.6%
	22:55	○	(米) 8月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	69.6	69.6
	23:00	◎	(米) バーナンキFRB議長講演	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com